

2025年12月15日

各 位

会社名 株式会社 坪田ラボ
代表者名 代表取締役社長 坪田一男
(コード番号: 4890 東証グロース市場)
問合せ先 企画管理本部マネージャー 木下淳
(TEL 03-6384-2866)

会社スタッフ・共同研究者の心理的ウェルビーイングに関する調査研究を 第14回日本ポジティブサイコロジー医学会学術集会にて発表

株式会社坪田ラボ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：坪田一男、以下「当社」）は、2025年12月14日（日）に開催された第14回日本ポジティブサイコロジー医学会学術集会において、当社が実施した「ごきげん調査」に関する研究成果を発表いたしました。

本研究により、当社の会社スタッフおよび共同研究者の心理的ウェルビーイング（以下、「ごきげん度」）が一般集団平均を大きく上回る高い水準にあること、ならびにごきげん度と業績・研究成果との関連が示されました。

➤ 研究の背景

スタートアップ企業は急速な市場変化や成長圧力の中で、多様な役割を少人数で担うことが求められ、心身の負荷が高まりやすいことが指摘されています。近年、大企業を中心に「メンタル不調への対応」に加え、ウェルビーイングを高める取り組みが生産性や創造性に寄与するとの知見が蓄積されていますが、スタートアップ企業を対象とした科学的研究は十分に行われていませんでした。

当社は、「Visionary Innovation で未来をごきげんにする」というパーサスのもと、研究開発に携わる人々が“ごきげん”に力を発揮できる環境づくりこそが、革新的価値創造の基盤であると考えています。

➤ 「ごきげん調査」の概要

そこで、当社では役職員（役員・従業員、以下、「会社スタッフ」）および社外協力者（以下、「共同研究者」）を対象に、主観的・心理的ウェルビーイング（以下、「ごきげん度」）を測定し、ごきげん度に寄与する因子の探索や、業績指標との関連を検討する「ごきげん調査」を実施しました。

本研究は、医学博士でありポジティブサイコロジーを専門とする松隈信一郎先生の監修のもと、PERMA モデルを用いて組織パフォーマンスとの関係性を科学的に検証するものです。本学会では、その初回となるベースライン結果と、今後の縦断的調査の方向性について報告を行いました。

- 本研究から得られた主な成果
- 会社スタッフおよび共同研究者のごきげん度はそれぞれ 7.31 と、いずれも一般集団平均 (5.46) を大きく上回る高い水準
- 会社スタッフのごきげん度は、
 - ✧ 自身の能力を発揮できているという感覚
 - ✧ 周囲との良好な関係性や、誰かの役に立てているという実感
 - ✧ 仕事の意義や将来への展望と高い関連を示し、PERMA モデルの主要構成要素 (Positive Emotion, Engagement, Relationships, Meaning, Accomplishment) と整合
- ごきげん度と成果指標の関連として、
 - ✧ 会社スタッフでは、自己申告パフォーマンス
 - ✧ 共同研究者では、特許出願数との有意な関連を確認

これらの結果から、個人の意味づけや周囲との関係性が重要な要因となること、高いウェルビーイングが企業活動および研究開発活動に好影響をもたらす可能性が示されました。

➤ 今後の展望

本研究は、当社が進めるウェルビーイング研究の基盤であり、今後予定している縦断的研究の出発点となるものです。当社は、研究開発型上場スタートアップとして、ウェルビーイングと組織成長の共進化を目指し、科学的エビデンスに基づく経営と製品創成を通じて、持続的な企業価値向上を推進してまいります。

【学会概要】

- 学会名：第 14 回日本ポジティブサイコロジー医学会学術集会
- 会期：2025 年 12 月 14 日（日）
- 会場：慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール
- 演題名：“ごきげん”経営への取り組み—ごきげんはパフォーマンスを上げるか？
- 発表者：北村奈々、光岡圭介、松隈信一郎、坪田一男
- URL：<https://www.jphp.jp/shukaisemi.html>

以上